

令和6年度第2回 海岸工学幹事会議事録

開催日時：令和7年4月7日（月）14:00～17:10

開催場所：土木学会C会議室＋ZOOM会議

出席者：森委員長，渡部副委員長，北野幹事長，

有川，遠藤，大井，加藤，木原，嶋原，高川，田島，中下，原田，保坂，山城，渡辺，

荒木，内山，有働，川崎，越村，下園，門廻，西畑（敬称略）

議事録：西畑，北野

資料：

- ・ 令和6年度第2回海岸工学幹事会議事次第（資料1）
- ・ 事前回覧資料（研究小委員会）（資料2）

水工学委員会からの交流委員 五十里先生→榎田先生

土木学会環境システム委員会へのリエゾ委員派遣 遠藤先生→比嘉先生

■前回議事録の確認（WEB公開済）

- ・ 前回幹事会の議事録 → Web公開済み

■第71回海岸工学講演会（秋田開催）の報告（渡辺先生→門廻先生代理報告）

- ・ 2024年 11月6（水），7（木），8（金）に対面実施、前日シンポ、見学会（秋田港）あり
- ・ 前日シンポ延べ148名
- ・ 県外482人参加（総勢488名）
- ・ 秋田コンベンションより補助48万2千円
- ・ 土木学会行事に関する報告書

→著者負担金¥35,000（本論あり），¥25,000（本論なし）

J-Stage論文にかかる費用¥10,000強（それ以外の料金も少し含まれるので）負担金差額¥10,000は，ほぼ実費経費といえる．

■第72回海岸工学講演会論文審査（山城、中村、北野）

- ・ 登録論文数：271編（和文253編、英文18編）

→昨年290編より20編程度減少

- ・ 投稿論文にもとづいた企画セッションは開催しない
- ・ 査読者割当（主査：8.0編/人，副査1：9.7編/人，副査2：4.7編/人）
- ・ 査読受諾意思確認（主査副査合計：120名）
- ・ 査読者リスト※資料参照
- ・ 審査手順

主査1名で判断，A,B) ふさわしい，C) 懸念がある，D) ふさわしくない，のいずれかでMicrosoftフォームにて報告 →A,B,C,Dは以前の本論審査の評価形式を踏襲

※主査全員は担当論文以外にも閲覧可能

自分の担当論文以外でも気になる点があれば報告を依頼している

- ・スケジュール

3月17日に論文発表審査受付終了→4月7日（本日）審査採択案の協議

- ・査読結果

A, B) ふさわしい：263編

C) 懸念がある：8編

D) ふさわしくない：0編

→C判定8編と、そのうち要旨の書き換えを求めるもの2編についてcec審議，すべて通過

→上記について承認（幹事，委員）

- ・投稿数と採択率の推移

→去年から論文投稿審査方法を変更したため，ほぼ100%の採択になっている．

- ・分野別採択率

→「波・流れ」が増，「沿岸域の環境と生態系」が減

- ・懸念がある論文

要旨書き換えを依頼：2編→査読者の判断理由とcecの対応を説明

- ・論文発表審査結果通知メール文案

採択/不採択されたことのみ連絡+J-Stage論文を書く場合の注意事項のお知らせ

- ・論文発表審査に関する報告

1件、二重登録あり（誤って登録した古い投稿を著者に確認して事務局が削除）

- ・論文ID通知メールの送信エラー

今回2件のみ（メールアドレス記載間違い）．

昨年度は締切間際への投稿集中からエラーが多かった．

※今年度は論文ID通知メールの送信を新規登録時にみして送信件数抑制，効果あり．

- ・論文発表審査に関する報告

要旨内容：書き方が悪く審議になっている要旨あり

→目的，手法，成果がわかるように（今後は）注意喚起する．

- ・査読割当作業

Googleフォーム入力データと論文ID保存シートが分かれており統合作業が発生

機種依存文字の読み込み不能に伴うエラーの発生 →作業煩雑化要因

- ・著者負担金と論文DVD価格

→著者負担金（Jstage有，上限）¥45,000 ：昨年までは¥35,000

（Jstage無，上限）¥30,000

※原則辞退は認めず，登録費用5,000を課す（アクシデントによる登録ミス含む）

※昨年の海岸工学委員会資料を確認，上記負担金で承認

- ・主査は担当以外でも気になる論文に関しては意見可→数件，担当外の主査から意見あり

■海岸工学論文投稿査読新システム検討特命WG（北野）

海岸工学独自のシステムの構築，試行運用中，明日（4/8）から運用開始

「海岸工学投稿・査読システム (Submission/Review for Coastal Engineering Research)」という名称にしている（委員会として，他の用途にも転用できるように）．
投稿審査フロー→海岸工学委員会の従来仕様に近づけるもEMの制約でできないことあり．

- ・新システム導入の見積、発注書金額を説明
- ・募集要項、投稿・査読情報（HP使用）の説明
- ・本論文投稿方法に関する説明→説明会は開かず，説明資料を見て理解いただく方針
- 運営側の要綱はわかったが，投稿者から見て何が変わった？
- 去年のシステムから投稿者，査読者情報は引き継がれないので再度登録が必要．
- 投稿者側の変更点はあまりなく，パスワードの再設定のみ周知すればよい？
- 去年のシステム（現在も他の委員会の特別号で運用中）で投稿しないように注意．
- 昨年よりも簡素化し，直感的な操作になった（補足）．
- A, Bの違いはないのでは？→そのとおり，したがって，一緒の項目としている．

■第72回海岸工学講演会の準備状況について（中下，山中）

- ・概要、実行委員名簿紹介
- ・スケジュール，実行委員役割分担の説明
- ・幹事会での相談事項
- 1) プログラム枠案
 - ・3日目第5会場は先約があり使用不可
 - ・9時開始でも271件の発表数ならば対応可能
 - ・前日シンポジウムは南海トラフ（防災）関係で四国支部から何か出せないか
 - 小委員会からの提案あり，時間ずらして対応したい
 - 香川大学の機構（四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構）さんからも市民向けのシンポの提案あり→次回委員会までに要調整
 - 「気候変動適応策」で実施したい（有川先生）．
 - 越村先生：提案が多そうなので，「沿岸災害デジタルツイン」は今回提案しない，
 - ・見学会は四国地整、香川県に相談
- 2) 懇親会会場（200名）
 - ・会場候補1（JRホテルクレメント高松），候補2（アールベンアンジェ高松）
 - 懇親会費は前者9000円、後者は7000円（徒歩15分，送迎バスあり）
 - 前者9000円は最低限の会費
 - 赤字が出ないように→実行委員独立採算（懇親会案内は，HPに掲載しない．MLは可）
 - ・香川県知事，高松市長，整備局長挨拶予定
- 3) 会場と部屋数

- ・小委員会で使用できる部屋は2～3部屋→3部屋あれば十分
 - ・第三会場は仮で2つ予約，5月中旬までに一つにする必要あり
 - 第三会場をタワー棟かホール棟のどちらにするか
 - 後者はスクリーンが遠く，プロジェクターが不安定
 - 前者BBスクエアで調整中（事前予約が難しい）→こちらを確保する
 - ・予算計画，会場，企業展示など→会場予算は165万円程度
 - アルバイトの人数確保は大丈夫か
- 次年度，次々年度開催地からの学生バイト協力で対応，不足するなら人材派遣利用

■第73回海岸工学講演会の準備状況について（山城）

- ・実行委員会（山城、井手、池畑、鶴成、松下）※鶴成先生は新規
- 少しずつ委員を増やしていく予定
- ・会期，開催場所（大分），会場の説明（1-4階：5会場，小委員会2室）
- 会議室使用料が安いから多めに取っておく
- ・企業展示は1Fエントランスを予約
 - ・見学会検討中（大分港、別大国道のフレア型護岸）→前日シンポと兼ね合い
 - ・懇親会2候補（レンブラントホテル、ホテル日航オアシスタワー）→前者が安い
- 参加者数が気になる
- コロナ前の鹿児島は170名（秋田開催は110名）※高松開催を参考にする
- ・予約状況と使用料，補助
- 使用料110万円程度、補助50万円程度（参加者数による）
- 補助金取得は開催イベントのリストだけで可か，人数・宿泊者数まで必要か要確認
- ・検討事項
- 1) 第一セッションが9時に開始できない
 - 2) 見学会と前日シンポの兼ね合い
- 前日シンポは同時進行開催を考慮して2ホール取るか？
- 上述の通り（多めに取っておく方針）
- 3) 講演依頼は九州地整、大分県、大分市予定
 - 4) 見学会は九州地整かビルドOITA（建設関連の産学官組織）
 - 5) アルバイト大学：大分大学，日本文理大学，九州大学，西日本工業大学

■第60回水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催について（山城）

テーマ：水工学のパラダイムシフトをもたらす技術・研究（水工学担当年度）

※テーマ内容スケジュール説明

日程：2025年8月28日（木），29日（金）

会場：九州大学病院キャンパス百年講堂 ※当初案 九州大学筑紫キャンパス

→3月にならなければ予約が取れなかったが、イベントが入れられていた

受講者申込数：(Aコース120名(対面50), Bコース120名(対面50名))

参加費：現地がオンデマンドより2000円安い(オンデマンドはサーバー使用料発生)

- 昨年の参加者数減は周知が不足していたからか.

気づいたら締切過ぎとならないように今回はいろいろなところで案内を出して欲しい.

- 開始時間は?→9:00スタート(例年通り)

- 費用が高いので、一日のみ参加として費用を下げる案は.

→ なかなか難しい. 水工学担当者にも伝えておく.

→ 学生の参加数は読めず、企業に期待. 但し、企業では若手が行く研究会とのイメージあり. 企業のシニアの方も参加できる会に見られるように案内文を工夫する.

・交流会：昼と夕方に講師と参加者の交流の場を設定

■第61回水工学に関する夏期研修会(Bコース)開催について(北野)

日時：2026年9月

会場：中部地区(金沢大学：由比先生、榎田先生、谷口先生に、ご快諾)

■Coastal Engineering Journalについて(内山)

・2023のIF:1.9

・メンバー：アナワット先生を副小委員長, associate editor-in-Chiefに加えた.

→CEJ投稿数増に伴う(後述)

・CEJ2024 December, Vol.66, Issue4 は6編で構成(Technical Report 1編含む)

・2025CEJ special issue:Interdisciplinary Exploration of Coastal Morphodynamics

→finalizeされた(13編で構成)

・2026CEJ Virtual Special Issue: The 2024 Noto Peninsula Earthquake Tsunami and Tsunami in the Sea of Japan Region

-4編投稿のみ, 締切を2カ月延長

・CEJの投稿数は増えてきている(2024年は213編). 投稿は各国から, 特に東南アジアからの投稿増. 今年も200編越えそう.

・Coastal Engineering Journal Award 2024

→ 最終選考候補論文を紹介.

・CEJ Citation Award 2024(2020-2024)

→(昨年の受賞論文を外した)2位論文を候補論文とする.

- Review Paperに特有の事情に対する議論は?

→特にしてない, Review Paperのカテゴリーを設けているので投稿数増は前提.

- Review Paperは, Citationが伸びる傾向あり, この点を確認できて良かった.

・JAMSTEC中西賞推薦論文

- CEJ内規で決まる2位論文を候補論文として紹介.
- ・CEJ Reviewer Award 2024
- 基準: 年間3-5編以上完了, 平均遅延が原則ゼロ日以下.
- 4編以上の査読を完了した8名が対象となった(4回目以上の受賞者1名除く).
- ・CEJ特別セッションが海講であるといい(海外からの招待講演)
- ・査読時間のさらなる短縮(〆切: 初稿28日, 第二稿以降14日)
- ・Royalty (3/7通知, T&Fより4月以降に振込予定)
- 海岸工学講演会の招待講演費用に使える(海外Editor, Award受賞者など). 旅費は, 予算に合わせた金額も調整し易い. 前日シンポで講演会を企画, 年度末前に支出がよい. 何年かに1回, CERCメンバーに来てもらい, 海岸工学講演会の盛会ぶりを見学も良い.
- ・Special Issue 2027の企画: CFD海岸工学など(中大・有川先生より申し出)
- ⇒ 上記, Award候補論文については承認(委員, 幹事)

■沿岸域研究連携推進小委員会(遠藤)

- ・委員会メンバー, 学生同士の連携
- ・沿岸域に関する地域活動に関するレビュー, 活動している研究者同士の交流を図る
- メンバーの世代交代・入替え期, 他委員会と比べて活動ができていない
- コロナ期を経て下火(沿環連が無くなったことも大きい)
- 6月16日の海岸工学委員会までに調整

■広報・出版・Web開催小委員会(鳴原)

- ・海岸工学関連の本の紹介→2年位未更新(今月中に更新)
- ・海岸工学講演会関連委員→HPのメンバー更新
- ・サーバー管理, アップデートすると動かなくなる事象→サーバーセキュリティWGで後述
- ・出版関連: 夏くらいから海講準備に入る
- ※元々の委員会名称に「Web開催」を含んでいない(コロナ対応で始まった「Web開催」は, 今後はないので)→6月の委員会で元に戻してはどうか.

■研究小委員会, 研究会, WGの活動について

- ・沿岸まちづくりにおける経済学的手法検討小委員会(安田)
- ・沿岸災害デジタルツイン研究小委員会(越村)
- いずれの小委員長も(国際会議出席のため)欠席であり, 研究会やWGと同様に今回は事前回覧のみ.

■その他

- イ) ESCI収載に関するアンケート結果を受けての今後の対応(山城)

案１：Journal of JSCEに特集号を残す（通常号のEM）

案２：Journal of JSCEに特集号を残す（別の査読システム）

案３：Journal of JSCEと特集号を切り分ける（別の査読システム）

→海岸工学委員会は案３で回答（海岸工学委員会独自のEMを導入）

他の編集委員会も案３が多数

→特集号のJstage英文論文は、これまでJournal of JSCEに掲載されていたが、案３は、
「Journal of JSCE, Special Issue（仮）」としてJ-Stage上に掲載.

ロ）水工学委員会 水理公式集例題集編集小委員会（山城）

- ・「水理公式集例題集【2024年度版】」：4年くらいかけて発刊
- ・GitHubでプログラムは閲覧可能、理論はテキストのみ掲載
- ・プログラムに関する講習会を企画

日時：2025年6月11日（水），12日（木）

場所：土木学会AB会議室 ※対面のみ

参加費：会員3,000円，非会員5,000円，学生会員2,000円（各+1000円値上り）

内容・スケジュール：資料通り，周知していく

ハ）サーバセキュリティ対策特命WG

- ・メンバー，業務内容
- ・海岸工学委員会HPのアップデート対応
- ・Perlのバージョンをアップグレード
- ・PHPとWordPressのバージョンアップをしたところ，不具合⇒ダウングレード実施
- ・HP更新代行サービス等使って各アプリをアップグレード，HP更新を考えている
- ・論文投稿・査読システムサーバー（旧）の扱い方

⇒現在の利用期間は，2026年2月28日まで，年間維持費用は43,560円

APAC2023で同システムを利用したが，解約しても問題なし.

ニ）海岸工学2040（渡部）

- ・将来ビジョン（3つの学術的目標）に対するプログレスマトリクスの説明
- ・4つのWG立上げ，参加者募集

ホ）海岸関連省庁との連携ワーキング（田島）

- ・海岸関連人材強化プロジェクト

シードクター，検討会プラス1，河川砂防技術研究開発公募提案型課題（海岸）の新設，国交省職員の能力強化，直轄事務所担当者会議の新設，検討業務への学識経験者意見の位置付け

- ・シードクター・プラス１の心得・運用ルール（議事資料参照）
- シードクター，プラス１のリスト管理，プラス１の選任は海岸工学委員会にて
- プラス１の名称がわかりにくいため，ネーミングの改善の余地あり．

へ）第４回日中土木学会ジョイントシンポジウム（北野）

- ・2025年は（日中ともに）難しく，2026年の開催を予定しているとの報告あり．

ト）2024年度決算（北野）

- ・資料のとおり，承認した．

チ）ICCE OSAKA JAPAN 2028（森）

- ・運営会社を決めている段階
- 夏前に役割決めて立ち上げ，来年から徐々に準備にとりかかる．
- ・LOGO DESIGNとプロモーション用のグッズ作成（てぬぐいと扇子）（渡部）
- 資料に提示されたとおり，日本らしさをマンガ的なアプローチで表現．
- 今後開催される国際会議にて，グッズを配布して，プロモーションを行う．

以 上